・ 💷 マルチ/ハイパースペクトル解析 "MultiSpectral Analysis"の紹介:

マルチスペクトル、ハイパースペクトル画像を用いた画像分類機能集は、この "MultiSpectral Analysis" でおこないます。 基本的な作業の流れと、関連する機能についてまとめました。

A:「エンドメンバーの作成方法」



 ・エンドメンバーの作成手順は、ROIを作成し、Class としてまとめ、最後にエンドメンバーとして割り当てる 順番です。エンドメンバーは、自分で作成する以外に、既存のスペクトルライブラリを用いることもできます。
・より精度のよい画像分類を行うには、用いる画像に対して、大気補正(Atomospheric Correction)や包絡 線補正(Generate Continuum Removed Image)を行っておく必要があります。



・画像分類の手法はSpectral Angle Mapper の他に、エンドメンバーの存在比率を求める Linear Spectral Unmixing などがあります。

B:「大気補正の方法」

マルチスペクトル、ハイパースペクトル画像で一般的に行われている大気補正処理の 方法をご紹介します。

フラット・フィールド補正(Flat Field Correction):

この手法は、広い面積をもつコンクリートや凹凸の少ない砂漠、裸地など、明るく均一 なスペクトル反射パターンのサンプルフラットエリア(Flat Field)が存在する画像の場 合に有効な手法です。サンプルフラットエリアのバンドごとの平均スペクトル値を求め、 サンプルフラットエリアの平均スペクトルで割ることによって"相対"反射率に変換され ます.ただ、多くの場合、サンプルとなるフラットエリアを見つけるのは難しいです。算 出された相対反射スペクトル内に偽の特性を生み出します。シーン内に著しい高度変 化がある場合は、変換されたスペクトルは地形影と大気光路差の残差効果にも組み 入れられます.



平均相対反射率補正(IAR: Internal Average Relative Reflectance Correction): この手法は、画像全体の平均スペクトルを求め、その値で割るといった形で、正規化 処理を行います。結果としてはフラットフィールド補正と似たような傾向になりますが、 植生のない乾燥地を前提にしているため、森林が多く湿度の高い日本周辺での適用 は推奨されません。

ただし、現地の情報が少なく、参照するデータがない場合でも計算でき、地形の影と 大気の散乱補正に効果がある点で頻繁に利用されています.

